

X 国際総合科学部における専門教養教育

1. 専門教養教育・コースの概要

教育の理念・目的

国際総合科学部では学部教育の基本を教養教育と位置づけ、一人ひとりの学生に課題意識を喚起し、大学で学ぶ基本姿勢の修得を核とする共通教養と、その課題解決の基礎となる知識、スキル、態度を鍛える専門教養から教育課程を構成しています。

戦後の安定した成長の時代を経て、環境破壊や公害問題といった急激な成長の負の側面も順調に克服されてきていた、そんな時代がいつしか出口の見えない停滞の中で、解決に向かって手を打つ気力も尽きてしまうのではないかなという状況が長く続いてきました。少子高齢化や災害への備え、国際的緊張など、私たちの暮らす社会は困難な課題に満ちています。

そうした中で求められるのは、既存の枠組みの中で既成の専門知識を学ぶだけでなく、問題のありかを総合的に把握し、斬新な発想で新たな仕組みを発明するようなことが必要なのです。どうしたらそうした人材に育つのか。答えを見つけるのは簡単なことではありません。突破のための力（知力、持久力、瞬発力etc.）を獲得できるような、勉強を基本におきつつ、大学生活を充実させてください。そのためには、大学で何を学ぶか、という自己の課題の発見がまずは肝要です。そして自らの必要と関心に応じた学修を、主体的にしっかりと行うことです。

一人ひとりの学生の課題、関心に応じた多様な学びを可能にするために、2005年に国際総合科学部は創られました。教養ゼミから始まって卒論まで、少人数の双方向教育を基本に据え、グローバルな視点で創造性と倫理観を備えた人が育つ学部を目指しています。

学系・コース概要

国際総合科学部には4つの学系があり、各学系にはそれぞれ3つのコースが置かれています。

また、6種類の学位のいずれかを取得できますが、2年次以降に所属する学系・コースに応じて取得できる学位（学士）が以下のように異なります。

学 系 (学位)	コ ー ス		
国 際 教 養 学 系 (国際教養学)	人 間 科 学 コ ー ス	社 会 関 係 論 コ ー ス	国 際 文 化 コ ー ス
国 際 都 市 学 系 (学 術)	ま ち づ く り コ ー ス	地 域 政 策 コ ー ス	グ ローバル協力コース
経 営 科 学 系 (経営学・会計学・経済学)	経 営 学 コ ー ス (経 営 学)	会 計 学 コ ー ス (会 計 学)	経 済 学 コ ー ス (経 済 学)
理 学 系 (理 学)	物 質 科 学 コ ー ス	生 命 環 境 コ ー ス	生 命 医 科 学 コ ー ス

それぞれの学位は、各学系・コースごとに指定された共通教養の基礎科学講義科目を基礎に、専門教養科目60単位及び専門教養ゼミ8単位、卒論演習（卒業研究）4単位、卒業論文2単位を修得することによって与えられます。学部の教育理念を実現するために、専門教養科目は、学問領域によって必修の単位数は異なりますが、学系基幹科目、コース基幹科目、コース展開科目、コース関連科目からなり、それぞれの学位の質を保証するように構成されています。課題の認識とその解決のために必要な専門知識を体系的かつ批判的に学び、卒業論文・卒業研究へ結実させてください。

ますます複雑になっていく現代の課題の解決には、それぞれ専門分野に立脚したさまざまな分野の人の協働が不可欠です。複数の分野を備えながらも1つの学部である特性を活かして、ゼミの中、コースの中、学系の中にとどまることなく、積極的に他流試合を挑んでください。日本人以外のメンバーからなる活動の場でも専門知識に裏打ちされた議論ができるよう、英語による授業も充実させていきたいと考えています。主体的な学修を期待します。

2. 学系・コースの選択について

本学の入試における入試区分は、2年進級時の学系及びコース選択を想定したものです。

基本的には入試区分に応じた学系のコースへ進級することになりますが、入学後も変更を可能とする柔軟な教育システムであるため、一定の条件を満たすことによって、入学時の制約を受けずに自分の選択する学系やコースに進級することが可能です。

(1) 学系への進級

各入試区分で入学した学生は、入試の際に合格した学系への進級が保証されています。

各学系の上限内で入試区分以外の学系への進級も可能です。

(2) 各学系の上限

設備や人員などの教育環境上の制約があるので、以下のとおり学系ごとの上限を設けます。各学系で希望者が上限を越えた場合には、選抜を行います（ただし、入学者数によって変動する場合があります）。

各コースの配属可能な人数については、学系配属説明会等で説明します。

単位：人

学 系 (上限)	コ ー ス		
国 際 教 養 学 系 (180)	人 間 科 学 コ ー ス	社 会 関 係 論 コ ー ス	国 際 文 化 コ ー ス
国 際 都 市 学 系 (140)	ま ち づ く り コ ー ス	地 域 政 策 コ ー ス	グ ローバル協力コース
経 営 科 学 系 (300)	経 営 学 コ ー ス	会 計 学 コ ー ス	経 済 学 コ ー ス
理 学 系 (160)	物 質 科 学 コ ー ス	生 命 環 境 コ ー ス	生 命 医 科 学 コ ー ス

(3) 学系所属学生の選抜、進級条件科目

選抜を行わなければならない場合には、配属条件科目の成績を用い選抜します。

各学系の指定する最低数以上の科目の単位を修得している場合には、成績が上位の3科目又は学系が指定する科目によって選抜します。

なお、以下の場合においては配属条件を満たす必要がありますので、別途教務担当にお問い合わせください。

入試区分以外の学系へ配属される時→(4)を参照
各コースへ配属される時

注意：条件を満たせない場合は、学系に配属されてもコースに所属することができません。

この場合、2年進級時に専門教養ゼミを履修することができないため、4年間で卒業することができなくなります。

(4) 入試区分以外の学系に進級を希望する学生の選抜方法

入試区分以外の学系に進級を希望する学生は、まず、その学系の配属条件科目を履修し、単位修得しなければなりません。次に、希望する学系の上限に空きがなければなりません。

このことを前提として希望者が上限に達していなかった学系の場合、選抜を行わず、条件科目を満たした希望者をすべて受け入れます。希望者が上限を超えた学系の場合、入試区分以外で当該学系を希望する学生を対象に選抜を行います。

※入試区分以外の学系を希望する場合は、入試区分以外の学系の配属条件科目を修得するとともに、入試区分学系の配属条件科目も修得することを強く推奨します。配属条件科目を未修得の場合は、2年次に進級してもコースに配属されず、4年間で卒業することができなくなります。

学系及びコースへの配属条件科目については別途、教務担当までお問い合わせください。

(5) 学系配属の申請手続き

学系配属に関しては、後期に申請手続きを行います。詳細は掲示板及びYCU-Boardに掲載するので、確認してください。

3. 専門教養ゼミ・卒論ゼミの履修について

(1) ゼミの概要

国際総合科学部においてゼミ・研究室は専門性を究めるうえで中核となる科目であり、少人数で自身が興味関心を持った学問について深く学び合う場です。また、指導教員は学修指導のほか、進路指導や悩みを抱えた学生に対する個別の支援を行います。ゼミ・研究室での活動を中心に据え、指導教員や仲間との議論を交わし有意義な学生生活を送ってください。

専門教養ゼミ及び卒論ゼミは、7科目14単位が必修です。その7科目は、下表に記載されたように2年前期のゼミ配属（理学系は2年ではコース配属、3年後期より研究室配属）、及びそれ以後のゼミ変更の手続きによって決定されたゼミを履修することとなります。これらの科目は原則として、各学年の各学期に1科目ずつ履修することになります。

履修時期	国際教養学系 国際都市学系 経営科学系	理 学 系		
		物質科学コース	生命環境コース	生命医科学コース
2 年 前 期	演 習 I	物質科学ゼミ I	生命環境ゼミ I	生命医科学ゼミ I
2 年 後 期	演 習 II	物質科学ゼミ II	生命環境ゼミ II	生命医科学ゼミ II
3 年 前 期	演 習 III	物質科学演習 I	生命環境演習 I	生命医科学演習 I
3 年 後 期	演 習 IV	物質科学演習 II	生命環境演習 II	生命医科学演習 II
4 年 前 期	卒論演習 I	卒業研究 I		
4 年 後 期	卒論演習 II	卒業研究 II		
	卒業論文	卒業論文		

(2) 同時履修

大学公式海外派遣プログラムでの留学（休学身分での海外留学は除く）、学系変更（理学系の場合は、コース変更を含む）などの理由により、演習科目の同時履修を希望する場合は、履修可否を審議するので、指定の申請期間内に教育推進課教務担当ほか各キャンパスの教務担当窓口で演習同時履修申請書を提出してください。（申請期間は、YCU-Boardで別途掲示します。）

学内の会議で審議のうえ、認められた場合は、1学期に1科目以上、学年を越えた演習科目を同時に履修することができます。ただし、その他の理由によるゼミの同時履修は原則認められていません。

4. 学系、コース、ゼミ変更について

2年次前期で所定の学系・コースに進級した後も、学系、コース、ゼミの変更を申請することができます。申請が認められた場合は、翌学期から所属を変更することができます。

上限人数に達している学系、コース、ゼミには、原則として転入できませんが、同時に転出者があった場合には、上限人数まで転入者を受け入れることができます。

(1) 申請条件

申請には、変更希望先のゼミ指導教員（理学系で研究室配属前は変更希望先のコース長）の許可が必要です。また、他学系への変更を希望する場合、1年次と同様に配属条件科目の修得（修得見込）が必要です。

(2) 申請書配布・受付時期

申請書配布及び受付時期は以下のとおりです。申請書は、期間内に教育推進課教務担当ほか各キャンパスの窓口で配布します。変更希望先のゼミ指導教員の許可が必要となるので、申請書配布から提出まで、1か月ほどの期間を設けています。詳しくは各学期の掲示を確認してください

	後期からの変更	翌年度前期からの変更
申請書配布時期	6月中旬	12月上旬
受付期間	7月下旬	1月下旬
変更可否掲示	9月中旬	3月下旬

(3) 変更後の単位の取り扱い

変更後の単位の取扱いは、原則変更後の所属での当該単位の取り扱いに従うことになります。

ただし、専門教養ゼミについては、以下のとおり取り扱います。

①同一コース内でのゼミ変更

➡変更後も専門教養ゼミの単位として扱われます。

②同一学系内でのコース変更

➡変更後も専門教養ゼミの単位として扱われます。

ただし、理学系においては、変更後のコースで改めて履修する必要があります。

（理学系では、すでに取得した専門教養ゼミは、学系及びコースが認めた場合に、コース展開科目の単位に算入することができます）

③学系変更

➡従前の学系で取得している専門教養ゼミの単位は、自由科目として扱われます。変更後の学系で改めて専門教養ゼミを履修する必要があります。

(4) 注意事項

- ・4年次の年度途中での変更は原則として認めません。
- ・転入希望者数が転出希望者数を超えた場合は、学系・コース選択と同様の方法で選抜します。
- ・変更希望先のゼミ指導教員（理学系で研究室配属前は変更希望先のコース長）の許可を受けても、審議の結果、変更不可となることがあります。

5. 副演習について

専門教養ゼミで分析対象としているテーマを別の視点から考えたり、異なる分析方法を利用したりすることが、学修・研究上、有意義な場合があります。そのため、履修している専門教養ゼミに加え、そのゼミ以外のゼミを履修する副演習制度が用意されています。

履修する専門教養ゼミの教員及び副演習の教員と十分に相談し、許可を得た上で履修してください。副演習は、理学系を除く学系でコース展開科目として単位が認められます。

履修登録の方法については、別途掲示を行いますので、留意してください。

6. 卒業論文について

(1) 卒論ゼミの単位について

卒論ゼミの単位は、「卒論演習Ⅰ・Ⅱ（理学系は卒業研究Ⅰ・Ⅱ）」、「卒業論文」の計6単位です。

なお、「卒業論文」が不合格の場合は「卒論演習Ⅱ（理学系は卒業研究Ⅱ）」の単位は与えられません。

ただし、卒論ゼミの単位は修得したが、その他の卒業必要単位数を満たすことができず、卒業判定で不合格となった場合においては、卒論ゼミの単位が取り消されることはありません。

(2) 卒業論文の提出について

卒業論文の提出にあたっては、以下の要領に従ってください。提出日時は厳守してください。

提出日時 (予定・別途掲示)	【経営科学系】 令和5年12月20日(木)・21日(金) 12時00分00秒から15時00分00秒まで
提出場所	提出媒体：製本ファイルを提出 提出場所：金沢八景キャンパス
提出物	卒業論文2部・要旨2部・卒業論文提出票 *提出票は、各指導教員より配布します。
様式	表紙・要旨は必ずA4とすること
綴じ方	指導教員より指示された表紙を使用し、論文の上には要旨を綴じること。
！！卒業論文を提出するにあたって、以下のルールを必ず守ってください！！	
1. 提出会場での書類記入、卒業論文の綴じ込み作業は禁止します。事前に用意をして「提出できる状態」にして会場に入ってください。	
2. 所定の注意事項が守られていない卒業論文は受理しません。	
3. 締め切り時刻の15時00分00秒までに提出会場に入室した学生の卒業論文については提出物を確認の上、受け付けますが、15時00分01秒は受け付けません。なお、会場内に時報に合わせた時計を設置し、その時刻に従います。	
4. 事務による確認作業があるため、早めに提出してください。	
5. 履修ガイドで定める「授業の欠席について」の理由のうち <u>下記に該当</u> して卒業論文を提出できなかった場合のみ、後日提出を認めます。	
(1) 親族の危篤・死亡（2親等以内）	
(2) 天災、自宅の火災	
(3) 交通機関の遅延（30分以上）・ストライキ	
(4) 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症（例：インフルエンザ、麻疹、おたふくかぜ、新型コロナウイルス感染症等）を発症した場合。（ただし、病状により医師において感染のおそれがないと認めたときを除く。）	

上記については、変更となる可能性があります。必ずYCU-Boardで確認してください。

卒業論文の形式などについては、各学系・コースの指導教員に確認してください。

提出日時 (予定・別途掲示)	【国際教養学系・国際都市学系】 令和6年1月9日(火)13時00分00秒から 10日(水)17時00分00秒まで
	【理学系】 令和6年1月25日(木)10時00分00秒から 26日(金)12時00分00秒まで
提出場所	提出媒体：データ提出 提出場所：YCU-Boardからオンライン提出
提出物	卒業論文・要旨
！！卒業論文を提出するにあたって、以下のルールを必ず守ってください！！	
1. 提出日時は、日本標準時（UTC+9）とし、YCU-Boardの時刻を基準とします。 2. 通信環境や機器（パソコン・プリンタ）の故障、USBやCDのデータ破損、ファイルの消失等を理由とする提出遅延は一切認められません。 3. 履修ガイドで定める「授業の欠席について」の理由のうち <u>下記に該当</u> して卒業論文を提出できなかった場合のみ、後日提出を認めます。 (1) 親族の危篤・死亡（2親等以内） (2) 天災、自宅の火災 (3) 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症（例：インフルエンザ、麻疹、おたふくかぜ、新型コロナウイルス感染症等）を発症した場合。（ただし、病状により医師において感染のおそれがないと認めたときを除く。） (4) その他、学部長が認めた場合	

上記については、変更となる可能性があります。必ずYCU-Boardで確認してください。

卒業論文の形式などについては、各学系・コースの指導教員に確認してください。

(3) 卒業論文の審査基準について

卒業論文の審査基準は大学ホームページに掲載しています。

【大学ホームページ】 URL:<https://www.yokohama-cu.ac.jp/academics/>



7. 各学系の履修について

国際教養学系

(1) 学系の特徴

多面的な視点からの考察力を身に付けるため、3つのコースそれぞれの科目を横断的に履修できるカリキュラムを用意し、人間・社会・文化に関する学際的学修を行います。また討論、調査、発表などの経験が積めるよう、演習を必修としますが、総合性を高めるために副演習も履修することを推奨します。そして4年次には、学生自身がテーマを決めて、教員のアドバイスを受けながら卒業論文を作成します。各自が問題意識をしっかりと持ち、それを明確化できるのであれば、どんなことでも卒論のテーマとして設定できます。

(2) 国際教養学系のコース配属と卒業要件となる共通教養科目について

2年次にコースに配属されるためには、1年次に、以下の共通教養科目の中から3科目6単位以上を修得しなければなりません。また、卒業までに5科目10単位以上を修得しなければなりません。

歴史学入門、社会学入門、心理学入門、文化研究入門、思想研究入門、文学研究入門、国際社会論入門、倫理学、日本国憲法、課題探究科目（歴史から今を知る）、課題探究科目（健康スポーツ科学）

また、2017年度以降入学生から、初習外国語のうち1つの言語の「教養基礎Ⅰ」（3単位）と「教養基礎Ⅱ」（3単位）の計6単位を卒業までに修得しなければなりません。詳細は「Ⅴ 共通教養科目＞12. 初習外国語について」のページを参照してください。

(3) コース紹介

●人間科学コース

「人間」を知るには、人間の体と心と価値に関する考察が必要です。人間科学コースでは、人間の身体的構造、心理的メカニズム、価値判断の問題、成長・発達・教育などについて、原理的・実践的に考察を深め、新たな社会を築く視座と能力を身に付けた人材を育てます。そのために哲学、心理学、精神分析、身体科学、教育学などの分野の科目を置いています。

●社会関係論コース

社会的な視点から現代の諸問題をとらえ、解決策を考えることができる人材を育てます。社会を歴史的経緯を含めて構造的に理解し、格差社会や貧困化、人権問題、ナショナリズムなど、さまざまな社会現象をタブーなしに取り上げます。現代社会論、社会理論、多文化社会論、日本社会史、欧米社会史、社会福祉論、コミュニケーション論などの領域の科目があります。

●国際文化コース

国際文化コースでは、日本文化と比較しながら世界の多様な文化への理解を深め、国際化時代における人間の有り様を探究できる人材を育成します。エスニシティ文化論、比較文化論、文化交流史、日本文化史、言語学などの分野について幅広く学べます。翻訳・評論・演劇などに関わる教員も多く、創造の世界に触れることも可能です。

(4) 国際教養学系卒業必要単位一覧

併せて、授業科目一覧表及び履修規程も参照のこと。

科目群		人間科学	社会関係論	国際文化	必要単位数	
共通教養	必修	教養ゼミ			4	
		基礎ゼミ			2	
		Practical English			3	
		情報コミュニケーション科目（入門1単位・基礎1単位）			2	
	選択必修	総合講義（うち2単位以上を地域志向科目）※2016年度以降入学生			4	
		基礎科学講義 歴史学入門 社会学入門 心理学入門 文化研究入門 思想研究入門 文学研究入門	国際社会論入門 倫理学 日本国憲法 課題探究科目（歴史から今を知る） 課題探究科目（健康スポーツ科学）		10	
		外国語科目	初習外国語のうち、1つの言語の「教養基礎Ⅰ」と「教養基礎Ⅱ」※2017年度以降入学生対象 ※既習者については別途定めます。		6 ※2017年度以降入学生対象	
		(1) 上記の共通教養科目のうち、必要単位数を超えて修得した科目 ※総合講義は2科目4単位まで選択必修の単位に算入 (2) 上記以外の共通教養科目 (3) 他学系専門教養科目（10単位まで選択必修の単位に算入） （自コースで専門教養の単位とならない他学系科目）			25 ※2016年度以前入学生対象 19 ※2017年度以降入学生対象	
		学基幹科目	学系で指定された学系基幹科目			4
		専門教養	コ基幹科目	(1) 自コース基幹科目（8単位選択必修） 及び (2) 学系内他コース基幹科目（8単位選択必修）		
コ展開科目	(1) コース展開科目 (2) 学系内他コースのコース展開科目			28		
コ関連科目	(1) コース関連科目 (2) 学系基幹科目、コース基幹科目、コース展開科目のうち、必要単位数を超えて修得した科目			12		
専ゼミ必修	演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ・演習Ⅳ			8		
卒ゼミ必修	卒論演習Ⅰ・卒論演習Ⅱ・卒業論文			6		
卒業要件単位数（共通教養50単位、専門教養60単位、専門教養ゼミ8単位、卒論ゼミ6単位）					124	

国際都市学系

(1) 学系の特徴

国際都市学系では、グローバルな知識と学問的な洞察力を備えつつ、現代的な課題に応える国際社会・都市社会を構想し、地球社会、地域、コミュニティの問題に対して解決策を導き出せる人材を育成します。社会科学・空間科学・地域研究などの分野を基礎として、国際社会理解、都市社会理解、多文化理解へとつながる幅広い内容のカリキュラムが用意されており、そこから学び取ったものを現代社会のさまざまな課題に応用することが可能です。また、フロンティア精神や起業マインドを身に付け、鋭敏な感覚をもって課題を「発見」し、諸問題の状況を積極的に「調査」し、得られた知見を綿密に「分析」して「考察」という、一連の知的なプロセスを修得することができます。

国際都市「横浜」は、21世紀の世界の都市が抱えるさまざまな課題を共有しています。つまり横浜の課題は、世界の都市共通の普遍的な課題でもあるのです。国際都市学系の3つのコースでは、既存の学問領域をベースとしながらも、フィールドに出て都市の課題と実際に向き合って学び、知識と経験をもって実践的に活動できることを重視します。同時に、国際都市横浜にふさわしいグローバルな視角を持ち、現代社会の問題を批判的に認識し、世界の舞台で具体的な貢献ができるようになることを目指します。

(2) 1年次から履修してほしい科目について

共通教養基礎科学講義の歴史学入門、社会学入門、政治学入門、行政学入門、国際社会入門、経済学入門Ⅰ、経済学入門Ⅱ、経営学入門Ⅰ、経営学入門Ⅱ、法学入門、社会統計Ⅰ、社会統計Ⅱ、社会システム入門、合わせて14科目の中から、3科目6単位を履修しておくことが、当学系に配属されるためには必要です。

同じく共通教養の総合講義には、国際都市学系のカリキュラムとの結びつきが強いものがいくつか開講されています。「まちづくり学入門」、「環境論入門」、「横浜と産業」、「横浜から世界へ」、「国際関係論」、「連携特別講座「国際協力事業」」などがそれです。ぜひ履修してください。

その他、専門教養課程での研究活動において求められるスキルを身に付けておくという視点からも、科目履修を考えてください。例えば、情報コミュニケーション科目は多くの皆さんにとって役に立つでしょう。海外地域研究に取り組もうと考えるならば、英語のみならずその他の外国語科目も積極的に履修するべきです。

(3) コース紹介

●まちづくりコース：

まちづくり・都市デザインの分野では先進都市である横浜を実践のフィールドとして、時代の変化に対応した都市の姿を構想し、プランニングや都市デザインを通して都市の課題の解決に貢献できる人材を養成します。都市計画、都市デザイン、市民参加、都市解析などを基礎として、交通、防災、環境、地域情報化、不動産マネジメントなどの多様な分野の知識を学ぶことによって、安全で住みやすいまち、環境に配慮した持続可能なまちなど、豊かな将来を市民参加で築いていくためのプランニング手法を身に付けます。実習やフィールドワークを重視した実践的なカリキュラムも特徴の一つです。

●地域政策コース：

少子高齢化、環境問題、新たな産業の創出など、都市はこれまでにない問題の解決を迫られています。地域政策コースではグローバル地理学、事業創造論、比較社会システム論、地球環境政策論、地方自治論、都市の経済と政策、都市財政論など、都市や地域に関する学問を総合的に学び、問題解決に必要な複眼的思考を養います。また、都市や地域の問題を解決する技術・手法を学び、実習を通して政策形成の基礎的能力を身に付けます。都市・地域におけるグッド・ガバナンスを追究し、行政、市民（団体）、NPO/NGO、民間企業等が協働する、元気な政治・経済・社会のあり方を考えることが本コースの目標です。都市や地域の問題に関心のある人、公務員や起業家を目指す人に向いています。

●グローバル協力コース：

グローバル協力コースの目的は、持続可能な地球社会の創造に貢献できる人材を育成することです。そのために本コースは3つの特徴を兼ね備えています。第1に、政治、経済、社会、地理、歴史など、さまざまな観点から地球社会を分析し、問題の解決策を考えます。第2に、国連や途上国を中心にフィールドワークを行い、現場感覚に基づいた生きた知識を身に付けます。第3に、学生の一定数は海外へ留学する一方、アジアを中心に留学生を迎え入れ、英語でも講義やゼミを行って研究や議論ができる力を養います。将来、国際機関や国際NGOで働きたい、環境、開発、格差、貧困、平和、紛争、途上国などの問題に関心がある、地球規模問題が起こる仕組みや解決策を知りたい、アジア地域を深く研究したい、という方に適しています。

(5) 卒業必要単位一覧

併せて、授業科目一覧表及び履修規程も参照のこと。

※ま：まちづくりコース、地：地域政策コース、グ：グローバル協力コース

科目群		まちづくりコース	地域政策コース	グローバル協力コース	必要単位数	
共通教養	必修	教養ゼミ			4	
		基礎ゼミ			2	
		Practical English			3	
		情報コミュニケーション科目（入門1単位・基礎1単位）			2	
	選択必修	総合講義（うち2単位以上を地域志向科目）※2016年度以降入学生			4	
		基礎科学講義 歴史学入門 社会学入門 地理学入門 政治学入門 行政学入門 国際社会論入門			10	
		経済学入門Ⅰ 経済学入門Ⅱ 経営学入門Ⅰ 経営学入門Ⅱ 法学入門 社会システム入門				
		(1) 上記の共通教養科目のうち、必要単位数を超えて修得した科目 ※総合講義は2科目4単位まで選択必修の単位に算入				25
		(2) 上記以外の共通教養科目				
		(3) 他学系専門教養科目（10単位まで選択必修の単位に算入） （自コースで専門教養の単位とならない他学系科目）				
専門教養	学基幹科目	学系で指定された学系基幹科目			2	
	コ基幹科目	(1) 14単位選択必修 ※実習1科目以上必修 及び (2) まちづくり実習 16単位必修	(1) 10単位選択必修 及び (2) 実習A・実習B 1・ 実習B 2より 4単位選択必修	(1) 14単位選択必修 及び (2) 海外調査実習又は 地域調査実習より 4単位選択必修	ま30 地14 グ18	
	コ展開科目	(1) コース展開科目 (2) 必要単位数を超えて修得したコース基幹科目 (3) 学系内他コースのコース基幹科目			ま20 地36 グ32	
	コ関連科目	(1) コース関連科目 (2) 必要単位数を超えて修得したコース展開科目			8	
	専ゼ必修	演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ・演習Ⅳ			8	
卒ゼ必修	卒論演習Ⅰ・卒論演習Ⅱ・卒業論文			6		
卒業要件単位数（共通教養50単位、専門教養60単位、専門教養ゼミ8単位、卒論ゼミ6単位）					124	

経営科学系

(1) 学系の特徴

現代の激化するグローバル競争下では、迅速に課題を発見し、解決する力が求められています。これに対応するには多様な考えを理解する広い視野と研ぎ澄まされた感性が不可欠です。広い視野は、経済学、経営学、会計学、及び法律学の基礎理論を学ぶことで身に付きます。1つの現象を異なるレンズで見ることができるようになるのです。研ぎ澄まされた感性は、専門性の高い科目の学修で鍛えられます。そして最終的にゼミの学修を通じて、経営学、会計学、経済学、そして法律学の理論と実践応用力を養い、広角の視野と鋭い感性とを総合的に磨き、グローバル経済における多様な価値観を理解し、合理的な意思決定ができる人材を育成します。

(2) 経営科学系のコースに所属するために必要な単位修得

経営学入門Ⅰ、経営学入門Ⅱ、簿記入門Ⅰ、簿記入門Ⅱ、経済学入門Ⅰ、経済学入門Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会システム入門、法学入門、民法入門、以上11科目22単位のうち3科目6単位以上を1年次に履修することが2年次から経営学コース、会計学コース、経済学コースのいずれかのコースに所属するための前提となります。したがって、1年次前期からの計画的な履修に努めてください。

(3) コース紹介

●経営学コース

経営学コースでは、企業などの組織をリードし、諸問題を解決するマネジメントを中心に学びます。経営学は企業を対象に発展してきましたが、今日その成果は官公庁、病院、NPO等あらゆる組織で活かされています。経営学、経営管理、経営戦略、国際経営、人的資源管理、経営財務、マーケティングなどを通してマネジメントの理論と実践を学び、社会現象の分析、戦略と組織の理解、問題の発見と解決につながる力を養います。

大きく学修分野を分けると、①マネジメント、②国際経営、③戦略・ビジネスの3分野となります。

なお、経営学コースでは、共通教養科目のうち、経営学入門Ⅰ、経営学入門Ⅱ、簿記入門Ⅰ、簿記入門Ⅱの合計8単位が卒業に必修の単位となります。

●会計学コース

会計学コースでは、会計理論を学び、企業経営の本質を数字の面から理解できる人材を育成します。まずは、企業業績を適切に測定するための会計学の理論を基礎として学び、これに国内及び国際的な家計基準や企業法、税法の知識などを付加していきます。そして、これら土台となる知識をもとに、財務諸表（決算書）を分析するためのスキル、企業業績を改善するための手法、及び株式への投資判断の基礎となる企業価値評価の手法を身に付けていきます。また、英語を用いた会計学の講義も複数開講されています。

将来のキャリアの観点から学修分野を分類すると、①ビジネス会計、②会計プロフェッション、③経営分析・証券分析の3分野となります。

なお、会計学コースでは、共通教養科目のうち、経営学入門Ⅰ、経営学入門Ⅱ、簿記入門Ⅰ、簿記入門Ⅱの合計8単位が卒業に必修の単位となります。

●経済学コース

経済学コースでは、世界標準に沿った形で経済学の理論や数量的分析力を身に付けます。ミクロ、マクロ、ゲーム理論、データ分析といった基本的知識を修得したうえで、グローバルに広がる市場経済や、国際的な金融市場、公的分野に関わる社会経済現象について分析・理解する能力を身に付けます。その上で“Cool Head and Warm Heart”（冷静な分析と人間味ある心：19世紀英国経済学者Alfred Marshallの言葉）をもつてものごとを評価することができるバランス感覚を養います。

学修分野としては、①公共経済、②国際経済、③金融経済の3つが中心となりますが、経済学の魅力の一つは、その適用範囲の広さです。グローバルな経済問題や哲学的思索といった伝統的分野に留まらず、企業組織やビジネスの分析も、今や経済学の主要なテーマになっています。

なお、経済学コースでは、共通教養科目のうち、経済学入門Ⅰ・Ⅱの4単位が卒業に必修の単位となります。

(5) 卒業必要単位一覧

併せて、授業科目一覧表及び履修規程も参照のこと。

※営：経営学コース、会：会計学コース、済：経済学コース

科目群		経営学	会計学	経済学	必要単位数
共通教養	必修	教養ゼミ			4
		基礎ゼミ			2
		Practical English			3
		情報コミュニケーション科目（入門1単位・基礎1単位）			2
		基礎科学講義 経営学入門Ⅰ 経営学入門Ⅱ	簿記入門Ⅰ 簿記入門Ⅱ	経済学入門Ⅰ 経済学入門Ⅱ	営会8 済4
	選択必修	経済学入門Ⅰ 経済学入門Ⅱ		経営学入門Ⅰ 経営学入門Ⅱ 簿記入門Ⅰ 簿記入門Ⅱ	営会2 済6
		社会統計学Ⅰ 社会統計学Ⅱ	法学入門 民法入門	社会システム入門	
		総合講義（うち2単位以上を地域志向科目）※2016年度以降入学生			
		(1) 上記の共通教養科目のうち、必要単位数を超えて修得した科目 ※総合講義は2科目4単位まで選択必修の単位に算入			25
		(2) 上記以外の共通教養科目 (3) 他学位専門教養科目（㊤10単位まで選択必修の単位に算入）			
専門教養	学基幹科目	学系で指定された学系基幹科目			16
	コ基幹科目	コースごとに指定されたコース基幹科目			16
	コ展開科目	(1) コース展開科目 (2) 必要単位数を超えて修得したコース基幹科目			16
	コ関連科目	(1) コース関連科目 (2) 必要単位数を超えて修得した学系基幹科目	(3) 必要単位数を超えて修得したコース展開科目 (4) 学系内他コースのコース基幹科目・展開科目	12	
専ゼミ	必修	演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ・演習Ⅳ			8
卒ゼミ	必修	卒論演習Ⅰ・卒論演習Ⅱ・卒業論文			6
卒業要件単位数（共通教養50単位、専門教養60単位、専門教養ゼミ8単位、卒論ゼミ6単位）					124

㊟経営科学系では、3コースで学位が異なるため、必要単位数を超えて修得したコース関連科目のうち、学系内他コースのコース基幹科目・展開科目も他学位専門教養として扱います。

(6) 大学院科目の早期履修制度

3年次が終了した時点で、国際マネジメント研究科が定める要件を満たした経営科学系の学生は、選抜により、国際マネジメント研究科博士前期課程の開講科目を履修することができます。この制度で修得した単位が国際マネジメント研究科に進級後単位認定されることによって、学部卒業後1年で修士号が修得できる可能性があります。

研究者や国際機関、自分の興味ある業界・職種で働くことを考えている学生は、大学院の研究指導を受け、また大学院の授業を受講することで、自分の経営学・経済学のスキルをより高めることができます。ぜひ選択肢のひとつとして考え、研究科主催の入試説明会を覗いてみてください。応募の詳細については、履修前年度の12月下旬頃にお知らせします。

理学系

(1) 学系の特徴

理学系では、エネルギー、環境、食糧、疾病、自然災害など現在人類が直面している難問を解決してよりよい未来を切り開くためのサイエンス・イノベーションを目指した教育研究を行います。そのために、物理学、化学、生物学、地学、数学分野を統合的に理解した上で、自然現象を「物質」と「生命」の観点から多角的に捉える能力を身に付けるとともに、社会における自然科学の意義を認識し、自らのテーマを社会に還元する能力を養います。物質科学コース、生命環境コース、生命医科学コースにおいて開講される専門科目と各コースが相互に連携・協力したコース横断的な教育プログラムにより、科学により未来社会をささえる人材を育成します。

(2) 理学系のコース配属要件

理学系各コースに配属するためには、以下に示す4つの分野のうち、複数の分野から合わせて6単位以上修得することが前提となっています。また、「電気と磁気」、「電気と磁気演習」を履修するためには、「リメディアル講座（基礎物理学）」を修得していること、「遺伝と進化」「生命の機能」を履修するためには、「リメディアル講座（基礎生物学）」を修得していることが条件です。

(数 学 分 野) 微分と積分、微分と積分演習、行列とベクトル、行列とベクトル演習、統計と確率

(物理学分野) 力と運動、力と運動演習、電気と磁気、電気と磁気演習、自然科学基礎実験A

(化 学 分 野) 化学結合と構造、反応の化学、環境の基礎化学、自然科学基礎実験B

(生物学分野) 生体分子と細胞、遺伝と進化、生命の機能、自然科学基礎実験C

(3) 各コースの受入れ上限と選抜方法

理学系では、実習設備などの教育環境上の制約があるので、各コースの上限を定めています。

物質科学コース：60人、生命環境コース：60人、生命医科学コース：40人

(入学者数等によって変動する場合があります)

このため、コースの所属が希望どおりになるとは限りません。希望者が各コースの上限を超えた場合には、以下の1と2の偏差値の合計で選抜します。

1. 自然科学基礎実験A, B, C合計の偏差値
2. 基礎科学講義の物理分野（力と運動、電気と磁気）、化学分野（化学結合と構造、環境の基礎化学、反応の化学）、生物分野（生体分子と細胞、遺伝と進化、生命の機能）のうち、2科目の合計偏差値（2分野からそれぞれ高偏差値の1科目ずつを合計）。

(4) コース紹介

●物質科学コース

物質の構造、性質、反応を自然科学の基本原理に基づいて、電子、原子のレベルで理解し、それらを自在に制御する物質科学の基礎を学修できます。この基礎的な学修が、物質創製、計算科学、計測科学へと展開し、現代の最先端科学技術であるナノサイエンス、新エネルギー開発、先端医療などに結びついています。

●生命環境コース

動物・植物・微生物が見せる巧妙で多様な生命現象、内外の環境に対する応答と適応の仕組みを、遺伝子、細胞、個体のレベルから体系的に学修します。ここで学んだ科学知識や実験技術で、器官再生研究や機能的食品開発、生命圏の維持など、次世代に必要な生命科学をリードし、安全で、豊かな地球環境づくりに取り組める研究者、産業人を育みます。

●生命医科学コース

生命現象を原子・分子のレベルで学修し、生命医科学の独創的な研究に携わる人材を養成します。

本コースの特徴は医学系と理学系の教員によるハイブリッド型の教育を行うことで、生体物質の構造と機能に関する生命科学と生体の機能と病態に関する医科学の双方をシームレスに学び、生命医科学の新たな分野を開くパイオニア的な研究者や産業人を育成します。

(6) 卒業必要単位一覧

併せて、授業科目一覧表及び履修規程も参照のこと。

科目群		物質科学コース	生命環境コース	生命医科学コース	必要単位数
共通教養	必修	教養ゼミ			4
		基礎ゼミ			2
		Practical English			3
		情報コミュニケーション科目（入門1単位・基礎1単位）			2
		自然科学基礎実験A・B・C リメディアル講座（物理学）、リメディアル講座（生物学）			3
	選択必修	総合講義（うち2単位以上を地域志向科目）※2016年度以降入学生			4
		○物理学分野 力と運動 力と運動演習 電気と磁気 電気と磁気演習		○数学分野 微分と積分 微分と積分演習 行列とベクトル 行列とベクトル演習 統計と確率	16 ^⑨
		○化学分野 化学結合と構造 反応の化学 環境の基礎化学		○生物学分野 生体分子と細胞 遺伝と進化 生命の機能	
		(1) 上記の共通教養科目のうち、必要単位数を超えて修得した科目 ※総合講義は2科目4単位まで選択必修の単位に算入 (2) 上記以外の共通教養科目 (3) 他学系専門教養科目（10単位まで選択必修の単位に算入） （自コースで専門教養の単位とならない他学系科目）			16
	専門教養	学基幹科目	学系で指定された学系基幹科目		
コ基幹科目		(1) コース指定の実験・実習 8単位必修 及び (2) 22単位選択必修	(1) コース指定の実習 10単位必修 及び (2) 20単位選択必修	(1) コース指定の実習 6単位必修 及び (2) 24単位選択必修	30
コ属科目 コース コース コース		(1) コース展開科目、コース関連科目 (2) 学系内他コースのコース基幹科目			10
専門教養ゼミ	必修	物質科学ゼミⅠ 物質科学ゼミⅡ 物質科学演習Ⅰ 物質科学演習Ⅱ	生命環境ゼミⅠ 生命環境ゼミⅡ 生命環境演習Ⅰ 生命環境演習Ⅱ	生命医科学ゼミⅠ 生命医科学ゼミⅡ 生命医科学演習Ⅰ 生命医科学演習Ⅱ	8
卒ゼミ 論	必修	卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ・卒業論文			6
卒業要件単位数（共通教養50単位、専門教養60単位、専門教養ゼミ8単位、卒論ゼミ6単位）					124

⑨物理学分野、化学分野及び生物学分野のうち、2分野からそれぞれ6単位選択必修。残りの1分野から4単位選択必修（4単位のうち2単位のみ数学分野でも可）

(7) 理学系前提科目

理学系では科目履修のための前提科目を設定しています。詳細は巻末の「科目一覧表」及びYCU Portalを確認してください。

(8) 卒業研究Ⅰ、Ⅱ及び卒業論文の履修要件について

○2015年度以前入学生対象

充実した実りある卒業研究Ⅰ及びⅡを行うためには、十分な知識と実験技術を修得しておく必要があります。そこで、3年次修了時点で以下2つの条件を充たしているように心がけて学修してください。

1. 卒業要件（124単位）のうち、110単位以上を修得していること。
2. 自然科学基礎実験及び所属コースの実習科目の単位をすべて修得していること。

○2016年度以降入学生対象

3年次修了した時点で以下の条件を充たしていなければ卒業研究Ⅰ、Ⅱ及び卒業論文を履修することができません。

1. 卒業要件（124単位）のうち、106単位（物質科学コース及び生命環境コース）又は110単位（生命医科学コース）以上を修得していること。

※例：共通教養科目で60単位修得している場合でも、卒業要件として換算されるのは50単位までです。

(9) 大学院科目の早期履修制度

理学系では、3年次が修了した時点で卒業要件のうちの116単位以上を修得していると、4年次で物質科学コース及び生命環境コースの学生は大学院生命ナノシステム科学研究科博士前期課程の開講科目、生命医科学コースの学生は大学院生命医科学研究科博士前期課程開講科目のうち、下記の科目を10単位まで自由科目として履修することができます。さらに、生命ナノシステム科学研究科又は生命医科学研究科に進学した場合、この制度で修得した大学院科目の単位認定ができます。

詳細については、履修前年度の12月下旬頃にお知らせします。

科目提供元	生命ナノシステム科学研究科			
	物質システム科学専攻		生命環境システム科学専攻	
	科目名	単位	科目名	単位
必修科目	物質システム科学序説	前(後)2	生命環境システム科学概説Ⅰ 生命環境システム科学概説Ⅱ	前(前)2 前(前)2
選択科目	(4単位以内) 特論科目より選択 ※国際リトリート、大学院特別講義Ⅰ～Ⅲ及びインターンシップは選択不可)	4	なし	なし
選択必修科目A	(4単位以内) ナノ物質創製科学概説 ナノバイオ物質科学概説 予測・感覚情報科学概説	後2 後2 後2	生命環境システム科学概説Ⅲ 生命環境システム科学概説Ⅳ	前(前)2 前(前)2
選択必修科目B	なし	なし	英語プレゼンテーション技術Ⅰ 英語プレゼンテーション技術Ⅱ ※Ⅰ又はⅡから1科目選択 生物機能実習※ 生体解析実習※ 生命情報実習※ 極限環境実習※ ※上記演習のうち1科目選択	集2 集2 集1 集1 集1 集1
自由科目	教科指導の研究 理科教育ケーススタディ	後2 後2	教科指導の研究 理科教育ケーススタディ	後2 後2

生命医科学専攻		
科目提供元	科目名	単位
必修科目 (6単位以内)	生命医科学総論Ⅰ	前2
	生命医科学総論Ⅱ	前2
	生命医科学リテラシー	前1
	科学英語リテラシー	前1
	生命医科学特別講座	後2
選択必修科目 (4単位以内)	生命創薬科学概説Ⅰ	前1
	生命創薬科学概説Ⅱ	前1
	生命創薬科学概説Ⅲ	前1
	生命創薬科学概説Ⅳ	前1
	生体制御科学概説Ⅰ	前1
	生体制御科学概説Ⅱ	前1
	生体制御科学概説Ⅲ	前1
	生体制御科学概説Ⅳ	前1
	分子解析科学概説Ⅰ	前1
	分子解析科学概説Ⅱ	前1
	分子解析科学概説Ⅲ	前1
	分子解析科学概説Ⅳ	前1
	生命情報科学概説Ⅰ	前1
	生命情報科学概説Ⅱ	前1
	生命情報科学概説Ⅲ	前1
	生命情報科学概説Ⅳ	前1

注意：専門性を高める観点から、早期履修科目を履修できるのは、物質科学コース生は、物質システム科学専攻、生命環境コース生は生命環境システム科学専攻、生命医科学コース生は生命医科学専攻の科目のみとなります。